

一人ひとりの自立をめざした学級づくり

I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。子どもたちは、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。いわゆる自己中心的な考え方をしている。現代社会は、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を顧みない傾向がある。そうした中で、「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが仲間として、お互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められ、さらに、学習集団にまで高める必要があると考える。

そこで、本部会では、これまでに一人ひとりが認められる学級づくりをめざして「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきている。今年度はさらに、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」についても研究していくこととし、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究の方法

- (1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。
- (2) 講師を招き、「学級づくり」についての研究を深める学習会を行う。
- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」についての学習を深める。

2 研究の具体的内容

- (1) 第1回研究会
今年度の研究の方向性の確認 研究テーマ、研究方法について
- (2) 第2回研究会
年間計画について
- (3) 第3回研究会 実践発表
「集団が個を育て、個が集団を育てる取り組み」(加納岩小6年)
「班活動を軸にした学級づくりのとり組み」(牧一小5年)
「一人ひとりの自立をめざした学級作り」(後屋敷小1年)
- (4) 第4回研究会 実践発表
「誰もが認められ、居心地がよい学級を目指して」(牧二小1年)
「みんなが楽しく過ごせる場所としての学級をめざして」(日川小3年)
「少人数クラスでの学級集団づくり」(神金小4年)

- (5) 第5回研究会 学習会
 講師 永田 清一校長先生(奥野田小)
 ・「学習集団づくりのポイント」について
 低学年・中学年・高学年グループに分かれて、情報・意見交換
- (6) 第6回研究会 授業研究
 教科における自主的・実践的な能力を育てるための実践(八幡小2年)
 国語科「スイミー」
- (7) 第7回研究会 実践発表
 「より良い人間関係を築くために」(三富小3年)
 「高学年としての意識を高めるための仲間づくり」(奥野田小5年)
 「仲間意識を高めるために」(大藤小4年)
 「子どもが自分のよさに気づき、自分のよさを発揮できるような学級をめざして」(神金小6年)
- (8) 第8回研究会 実践発表
 「誰もが認められるクラスを目指して」(後屋敷小3年)
 「最高学年としての目標から、互いを認め合う仲間づくり」(山梨小6年)
 「3年1組の8ヶ月」(塩山南小3年)
 県教研の報告
- (9) 第9回研究会 授業研究
 「わたしのことを紹介します」(納岩小2年)
- (10) 第10回研究会
 今年度の研究のまとめと来年度への課題

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・各部員の研究姿勢が意欲的であり、一人一実践の発表から多くのことを学び、刺激を受け、普段の学級集団づくりに生かすことができた。
- ・多くの実践から、小集団やグループ活動・仲間づくりを通して、学級の自治の力が高められるということがわかった。
- ・学習会では、「学習集団づくりのポイント」についての学習を深めることができた。また、グループに分かれて、情報・意見交換し合えたことは有意義であった。
- ・自治的諸活動部会として、9月・2月と2回の授業研究で、教科における自主的・実践的な能力を育てるための実践をもとに研究を深めることができたことは大きな成果であった。

2 課題

- ・今年度の実践から、集団になじみにくい子どもを包みこむ学級集団をどう育てていけばよいのかという点で、もっと研究を深めていきたい。
- ・授業実践の前に、指導案の検討をする機会があってもよかった。

(部長 飯島 典子)